

ティーチング・ポートフォリオ

山村学園短期大学保育学科／子ども学科

准教授 山村 穂高

Ⅰ. 教育の責任

(1) 担当科目

2026年度の担当科目は(表Ⅰ)の通りである。

(表Ⅰ) 2026年度 担当科目詳細一覧

科目名	開講年度	学期	対象学年	種別	受講者数	備考
保育の心理学	2024	前期	1年生	講義	47名	Ⅰクラス
アウトドア演習B	2025	後期	2年生	演習	10名	Ⅰクラス
子ども学ゼミナール	2025	後期	2年生	演習	5～10名	Ⅰクラス

(2) 学科の一員としての職務

学年ごとの授業や検定、行事など、各学年のサポート及び連絡調整を行っている。上記以外の授業としては子ども学演習、スキルアップセミナーⅠ・Ⅱなど、検定としては natural 保育検定、行事としては、新入生研修、保護者懇談会、山緑祭(学園祭)、ディズニールランド研修、ヨーフラヨーフラ(近隣の園児を招待する行事)、学習成果発表会などである。

(3) 学長としての職務

大学の教育・研究・運営を統括し、その最終的な責任を負う。

① 教育・研究の統括

教育方針、教育課程、研究活動の方向づけを行う。

② 大学運営の統括

教職員組織、各種委員会、学生支援などの総合調整を行う。人事を含む。

③ 意思決定と責任

大学としての重要事項を判断し、最終的な責任を担う。

④ 大学の代表

学生・保護者・地域・行政・他大学などに対して大学を代表する。

⑤ 法令への対応

教学に関する法令の改訂や社会保障に関する法令の改訂に対応し、学内の規程類を見直している。

⑥ 学生・保護者との面談

学生生活や進路に関する相談などについて、学生、保護者との面談を行う。

(4) 事務局長との共同

事務局長と共同し、事務局内の業務の調整、施設設備の管理などを行う。

(5) 経営・企画委員長としての職務

本学の集大成として、短大運営の重要事項について協議、決定、提案する。教学に関する委員会間の情報共有、自己点検評価を扱う。学生一人一人に関する情報、各委員会の取り組み状況、学科の行事準備の進捗状況、自己点検評価の進捗状況などの情報を共有する。

(6) ネットワーク委員としての職務

学内のネットワークの管理、SNS の運営などを行っている。

2. 教育の理念

(1) 建学の精神について

質実、英知、愛敬が本学の建学の精神であるが、女子高時代には英知は貞淑であった。質実、貞淑、愛敬は、飾らず、ぶれず、人を大切にすることを意味する。建学の精神は学校によりそれぞれであり、人格の完成を目指すもの、社会の理念を示すものなど多種多様である。本学の建学の精神が見据えるものは、人々の笑顔と幸福である。本学の建学の精神は、人々の笑顔と幸福を実現するための、その瞬間の人の在るべき姿勢を示している。社会貢献に向けた一人ひとりの在るべき姿と言ってもよい。本学、あるいは本学園のよりどころとして、この精神を大切にしていきたい。

(2) 本学の在り方について

少子高齢化は、本学が位置する埼玉県西部地区においても例外ではなく、18 歳人口は依然減少傾向にある。その一方で共働き家庭と子育ての両立は大きな課題であり、保育園、幼稚園のニーズは依然高い。本学としては、日本の将来、子どもたちの未来のために、地域で子どもを育てることの重要性を深く認識するとともに、質の高い教育を実践し、社会に貢献できる保育者を輩出していきたいと考える。

本学の学習上のテーマは「遊んで学ぶ」である。経験は人を育てるもっとも強力なプロセスである。緑豊かなキャンパスで、幼少時に経験した遊びや幼少の気持ちを再体験し、その感覚を呼び戻すとともに、保護者、保育者の視点から遊びと子どもの発達に

ついて専門的に考える。

また、今年度から月曜日をセルフブランディング Day とし、授業を入れず、学生が主体的に計画を立て実行する日とし、効率的かつ柔軟な時間の使い方ができるようにした。

さらに、今後はSDGs を取り入れた教育を本格化し、ファイヤーサークル、自然観察用プロムナード、薪作り等、脱炭素化社会実現に向けた教育的な取り組みについて研究していく。各授業、行事において、できるだけ体験的な要素を取り入れ、対話的で主体的な学びを実現していきたい。

(3) 教育観

「よりよい社会作りに向けて自ら考え実行できる、自律した人作り」を目指したい。自分が子どもの頃思っていた大人のイメージと実際にその年齢になった時の自分のイメージはかなり違う。思っていたほど大人になっていないという感覚が実際には強い。このように、人は子どもから大人への連続性の中にあるものなので、学生と接する際には、お互いに同じ人として一定の敬意をもって接するべきだと考える。もちろん必要な指導は行わなければならないし、時には厳しいことも言うべきであるが、学生のすばらしい部分については率直に認めていくことが大切である。言い換えれば、相手の存在を受容し、認めつつ、いかに必要なことを伝えていけるかということである。良いものはよい、悪いことは悪いとしつつ、愛情をもって学生の未来をともに考えていく姿勢を常に点検していきたい。

本学の小規模定員の枠組みの中では、一人ひとりに適した多くの舞台を用意することができる。たとえ小さな舞台であっても、そこに立てた自信や自己効力感がきっかけとなり、今まで気づかなかった自分を発見し、自律できるようになってゆく。私たちの、学生への姿勢そのものが学生たちに教育的な影響を与えているのである。学生は、本学での教員の姿勢を見て、就職後、子どもたちにどう働きかけるかを考えるかもしれない。私たちは、常にそのことを銘記して学生への指導に当たりたいと思う。

(4) 授業

授業は最も重要な時間である。限られた時間の中でいかに知識や理解を深め、応用可能な技能、態度にまで引き上げていけるかが大きな課題である。演習、実技科目については、より体験的で対話的、主体的な学習を促進する授業内容にすること、講義科目については、双方向型の授業や画像・動画を使用した疑似体験的学習を通して、知識、技能、態度の定着を図りたい。

授業の準備についても可能な限り手間をかけ、学生たちの理解のためのさまざまな

工夫を行っていきたい。

(5) 学生指導

学生生活、進路、学習その他、学生に対して適切に指導を行うことはとても重要なことである。そのことで生活環境や内面を整理し、学習に集中できるようになるからである。指導内容は、怠学への指導、悩みの相談、学習へのアドバイスなど様々であるが、前述したように学生の存在を受容し、認めながら指導していきたい。

(6) 地域社会との連携

子ども学科においては、他の学問領域以上に地域とのつながりが重要になってくる。毎年、数十カ所に及ぶ保育園、幼稚園、福祉施設で実習をさせていただき、就職についても地元の園への就職がもっとも多い。地域社会との連携という意味では、実習以外の分野においても地元の園との協力関係を構築していくことが大切であるし、ひいては地元の行政との連携、小学校、中学校、高校との連携を視野に入れた教育を実践することが重要である。

3. 教育の方法

建学の精神に示された社会貢献への姿勢は、学生の顕彰制度である建学の精神賞に具現化されている。

教員としては、学生に対する丁寧な対応をしていくことがすべての教育活動のベースとなる。そのことによって誰かのために貢献することの姿勢や意味を学生に伝えることができる。

「遊んで学ぶ」については、授業見学、授業評価アンケートをもとに学科内の研修、検討会を開催し共通理解を深めるとともに、SDGs の観点から、各授業内で屋外授業、アクティブラーニング、ICT を活用した双方向型授業などを取り入れた授業を展開する。

「よりよい社会作りに向けて自ら考え実行できる、自律した人作り」については、常にカウンセリングマインドを持って学生に接し、小さなことでも自信が持てるような応答ができるよう努力する。1 年生については、学内への適応を第一に考え、学習や学生生活について重点を置く。2 年生については、社会人としての準備として、礼節を身に着けられることに重点を置く。

授業については、準備に時間をかけ、授業内で提供できる内容と伝え方を精査し、パワーポイントの活用を始めとし、携帯アプリを使用した双方向型の授業展開、さらには自主的学習についても配慮していきたい。私語の取り扱いについては大変難しい面

があるが、①座席を指定し、それを週ごとにローテーションする。②最前列をフリーに着座できるような場所とし、学習意欲を引き出したい。また、話し方に関しては、適度な速さで、かつよどみなく話しをし、知識の吸収を促したい。

学生指導については、前述のようにカウンセリングマインドを忘れず、どんな学生に対しても、よいところをしっかりと理解しつつ対応していきたい。

地域との連携については、学外の機関との連携を図り、研修会や就職説明会などを企画し、地域の園、高校のニーズに応えられるようにしていきたい。

4. 教育の成果、評価

2026年度前期及び2025年後期の定期試験前に、学生に対して授業アンケートを実施した。問4：総合評価、自由記述は表2、表3、表4のとおりである。

（表1）2026年度の前期授業アンケートの結果一覧

	問4全体的に見て、この授業に対するあなたの評価はどの程度ですか。5点満点	自由記述欄
保育の心理学	4.6	・試験対策で覚えるのがすごく大変でした。 ・ありがとうございました。 ・興味を持てる授業内容だった。 ・心理学は理科っぽい学びと聞いていたが、先生の色々な話が聞けて良かったです ・授業のグループワークが楽しかったです ・質問したことに対して答えていただけたので良かったです。失礼を承知で言いますが、自分語りが少し多くて、重要な用語の説明が少なく感じてしまいました。 ・胎児の話が面白かったです。 ・ありがとうございました。 ・人に携わる仕事をするためには、自分のことをよく理解することが大切なことを学び、自分の理解を少し深めることができたように感じました。 ・先生の実体験から来る話はとても興味深かったです。ありがとうございました。 ・特にありません。 ・とても面白い授業でしたが、短期間に詰め込みだったので、もう少し時間的余裕が欲しかったです。 ・休憩があるのが頑張れました！ ・自分について知るきっかけになりました ・子供の愛着方法などについて知ることができて良かったです。 ・とても興味のある授業だった為、2時間経ってもあっという間に授業時間が過ぎてしまいました。より深く学びたいと思いました。 ・難しい内容でした ・最後の授業から次の日テストは大変で覚えられないです、、先生の昔の話聞けて面白かったです。 ・内容が盛りだくさんだったが、わかりやすいレジュメがあったため、家での学習の手助けになった。 ・体験や経験が多く、理解しやすかったしわかりやすかった ・ありがとうございました。

今季は初めて15回分の授業を実施した。3分の2が5点の評価をしており、それなりの数字だった。自由記述欄においては、集中講義だったことから、やや詰め込み感があった。パワーポイントの資料の作成に力を入れた。また、私自身の身近な課題を授業の中で取り上げ、どの人も多かれ少なかれ共通した課題を持っているということを理解できるよう配慮した。

(表2) 2025年度の後期授業アンケートの結果一覧

	問4全体的に見て、この授業に対するあなたの評価はどの程度ですか。5点満点	自由記述欄
アウトドア演習B	4.7	・ 自分の栄養になる講義でした。 ・ 本当よかったです。 ・ キャンプ楽しかったです。 ・ キャンプでなんとなく行っていた様々なことが、キャンプの理論を学ぶことで、改めてその意義を考えるきっかけになりました。キャンプは奥深く更に魅力的に感じました！今後も、沢山の子どもたちが、安全にキャンプや自然体験活動を行えるようなサポートができればいいと思います。ありがとうございました！ ・ 特になし ・ キャンプが楽しかった。 ・ キャンプが楽しかったです ・ 楽しかったです ・ キャンプが楽しかった ・ お泊まりが楽しさのMAXだった ・ 終わっていない人に合わせる

天候にも恵まれ、屋外でキャンプをすることができた。飯盒炊飯も無事実施することができた。神川元気プラザのアドベンチャーアクティビティーが充実しており、評価は高かった。来年度も、テントでのキャンプ、キャンプファイヤー、飯盒炊飯等をぜひ経験させたい。

(表3) 2025年度の後期の授業アンケートの結果一覧

	問4全体的に見て、この授業に対するあなたの評価はどの程度ですか。5点満点	自由記述欄
保育入門	4.5	・ みんな協力して2つもおべんとうがつくれて大満足です。 ・ とても楽しい時間でした。 ・ 工作が好きだったので楽しかったです。 ・ 初めてパネルシアターをやってみて、大きさを考えながらやったつもりが思ったより小さかったり大きかったりして難しかったです。最後は2つのおべんとう ・ ばこができてあがってよかったし、たのしく協力してできました。 ・ 3人で1つのパネルシアターを作成するのが楽しかったです。お弁当ばこの中身を作りました。みんなで歌をうたいながら作って紹介できて良かったです。

おおむね高評価であったが、高校生が興味を持てるような内容に常にアップグレードをしていく必要がある。すでに高校では保育専攻のコースをなくすことが決定しており、今後の授業の継続方法について、科目担当者間で話し合い、留意点についても共有しておく必要がある。

令和7年度卒業時本学に関する満足度アンケート					
	令和7年度 回答者数54名 回答率96.4%	令和6年度 回答者数46名 回答率97.9%	令和5年度 回答者数62名 回答率96.8%	令和4年度 回答者数57名 回答率100.0%	令和3年度 回答者数62名 回答率94.0%
問1 本学に入学したことをどの程度満足していますか。	86.1%	88.7%	81.5%	78.6%	78.1%
問2 いろいろな面での満足度を具体的に聞きます。					
(1)授業についてどの程度満足していますか。	83.7%	79.6%	76.0%	73.8%	74.0%
(2)実習とその指導についてどの程度満足していますか。	85.4%	80.2%	80.5%	73.6%	75.8%
(3)体験活動・学習や行事についてどの程度満足していますか。	83.5%	82.0%	79.2%	71.4%	66.6%
(4)この2年間の自分の成長にどの程度満足していますか。	84.8%	83.6%	78.2%	81.2%	76.9%
(5)就職できたことをどの程度満足していますか。	85.8%	92.6%	88.6%	85.4%	85.8%
(6)本学の施設・設備についてどの程度満足していますか。	77.4%	72.0%	71.9%	69.3%	65.6%
(7)友人との出会いをどの程度満足していますか。	88.7%	88.3%	84.0%	84.7%	82.4%
(8)先生との出会いをどの程度満足していますか。	88.9%	92.0%	85.6%	79.5%	79.8%
(9)事務局についてどの程度満足していますか。	87.9%	88.7%	77.1%	—	—

図1 卒業時満足度調査の結果

上のグラフは、短大全体について卒業生（令和5年3月卒業～令和8年3月卒業）に対して行った満足度調査の結果である。全般的に高い満足度であると言える。特に「先生との出会い」、「入学」、「友人との出会い」、「自分の成長」、「就職」、「実習」、「授業」に関して高い値になっている。

一方、「施設設備」に関する満足度は緩やかに上昇傾向にあるものの、相対的にはやや低い状況である。

事務局に関する満足度は、昨年同様の数値だった。

授業の充実を柱に、学生指導を充実させていくことが課題である。

5. 教育の改善に向けた今後の目標

短期的目標	・ IR 情報を整備、蓄積し、より教育改善に活かせる体制を作る。 ・ データベースに関する研究を進める。 ・ 三つのポリシーと学習成果、学力の3要素との整合性をさらに明確化し、教育改善に活かす。 ・ 「遊んで学ぶ」のテーマについて、SDGs の考え方を取り入れ、さら
-------	--

	に学内で共通認識を深め、授業展開の工夫や科目ごとの役割分担について明確にする。 ・ 対話的で主体的な学びについて方法を研究する。 ・ 週4日授業をさらに発展させ、個性ある時間割を作る。 ・ 個別学修サポート計画をつくり、学生の自己実現を支援する。 ・ 在校生が卒業するまでの間、教育力を維持、発展させ、最終学年にふさわしい1年になるよう、様々な観点から教育、行事を点検する。
--	---

6. エビデンス一覧

- (1) 各科目シラバス(保育の心理学)
- (2) 授業時配布プリント(保育の心理学)
- (3) 試験問題(保育の心理学)
- (4) 成績集計結果(保育の心理学)両面1枚
- (5) 授業アンケート結果
- (6) 満足度調査結果